

総務常任委員会記録

平成31年1月30日(水)午前9時58分～午前10時55分(9階908会議室)

○出席委員(8名)

委員長	小松 良行	副委員長	阿部 亨
委員	萩原 太郎	委員	羽田 房男
委員	小野 京子	委員	土田 聡
委員	粕谷 悦功	委員	宍戸 一照

○欠席委員(なし)

○議題

所管事務調査「広報政策に関する調査」

1. 委員長報告のまとめについて
2. その他

午前9時58分 開 議

(小松良行委員長) ただいまから総務常任委員会を開会いたします。

議題は、お手元に配付の資料のとおりです。

初めに、委員長報告のまとめについてを議題といたします。

前回お示しをいたしました骨子案をもとに、皆様からいただいたご意見を踏まえて、正副委員長手で委員長報告案を作成いたしました。

なお、前回の骨子案から主な変更点を資料1にまとめておりますので、ごらんいただきたいと思います。若干説明を加えさせていただきますと、資料1、委員長報告骨子案からの主な修正点です。

まず、全体構成としましては、3ページ目の部分、前回のものと見比べていただくとよくわかるのですが、生活広報、魅力発信広報、シティープロモーション共通事項といった点でありましたけれども、これを同じ①の生活広報全体に統合をさせていただいたところでした。

また、骨子案の5ページのほうですが、既存の広報媒体の効果的な使い方というのを削除いたし、3ページの①の生活広報全体にこれを統合させていただいています。これが委員長報告案1の2の修正箇所のページということになりまして、3ページ4行目と4ページ14行目、こちらのほうに記載となっております。

また、委員長報告案6ページ8行目ですけれども……さらに再考しましたので、ページ数があれになっています。委員長報告案1、2の修正箇所ページでありますけれども、2ページの21行目から4

ページの6行目のほうになってございます。委員長報告案6ページ8行目のところ、宍戸委員からのご指摘もあり、構成の仕方ですけれども、骨子案⑦、⑤、⑥というふうに順序を変更してございます。

それから、委員長報告案6ページ23行目から7ページ10行目、構成を変更して、他市の事例、本市の現状としたところで、骨子案にしましては7ページ15行目から22行目までということになっております。この点に関しましては、羽田委員からのご指摘がございましたところを修正させていただいた点でございます。

次に、委員長報告8ページ17行目以降でございますけれども、杉並区の実例ということを削除いたしまして、委員会としての意見というふうな感じになるよう修正を図り、関係各位への御礼を後段のほうに移行させていただき、骨子案10ページのほうにまとめ、謝辞と、このような構成に変更をさせていただいております。

文章の追加でございますけれども、委員長報告案1ページの3行目から6行目、調査の目的として現状に課題がある旨を追加いたします。

また2つ目に、委員長報告案3ページ16行目から20行目に磐田市の子供向け施策の説明を追加いたしました。小野委員からお子さん向けのというふうなところの報告も加えるべきとのご意見もありましたことから、このように追加させていただいたということでもあります。

また、次の下のほうですけれども、文言の修正、追加の箇所でございますけれども、委員長報告案4ページ4行、要する経費ということで、こちらのほうを追加しました。

それから、委員長報告案5ページ5行目、市民参加型というようなところを追加いたしております。

また、各課からの情報を集約しというふうに追記しております。この点に関しては、皆さんのご意見をもとにこのように入れてみました。

また、4番目でありますけれども、委員長報告案7ページの10行目、これは粕谷委員のほうからありましたように、登用という言葉は、ということで、活用に変更させていただいております。

以上の修正箇所を加えたものを改めて委員長報告案としてお手元にお配りしておるところでございますので、多少読み下すまでに時間が必要かと思われま。ただいまから15分ぐらいお時間をとらせていただきまして、この会議室の時計でおよそ20分ぐらいまで委員長報告案を黙読いただき、また改めてご意見を賜ればと思っておりますので、どうかよろしく願いいたします。

それでは、委員長報告案の黙読をお願いいたします。

【資料黙読】

(小松良行委員長) それでは、大体時間となりましたので、ご意見をいただきたいと思。ご意見のある方からお述べいただければと思。いかがですか。

(宍戸一照委員) ではまず、簡単なところから。語句という部分で、3ページ目の15番のARを用いというのはなかなかわかりにくい。ちょっとわかりやすい言葉にすべきではないのかなと。

(小松良行委員長) 何だったっけ、AR。

(書記) ARは、日本語に直すと拡張現実という。

(宍戸一照委員) それもわかりにくいけれども、ARを用いということのARという意味がなかなかわかりにくいのかなという部分をご指摘をさせていただいて、それから4ページ目の8行目、全ての町会加入者に毎月配布される市政だよりというのだけれども、確かに町会加入者には毎月配布されるのだけれども、そのほかに市民の皆様も各自で市役所に来たり、いろんなところで持っていつているので、ここ全ての町会加入者に毎月配布されるというふうに言う方がいいのか、ただ単に市民に配布されるというふうにするべきなのかという部分でご検討いただければと。

あと、次のページの2行目、夢つうしん、5ページの2行目、市内での配布は全戸配布ではなく回覧のみとなっているのだけれども、こういうふうに回覧のみに、確かに上の文章のくだりからすると班回覧のみなのだけれども、これの使い方としては、また一方においては応援団とか、そういう方にも配布しているわけですね。そういうような役割を担っているので、このみとしていいのかなというように思い。

細かいことでいうと、次の行でこの現状を踏まえ、まずは手にとってみたいと思え、かつ市民の信頼が得られる情報発信とすることを目的とする。まずは手にとって見てみたいと思える、るを入れるべきではないのかな。かつ市民の信頼が得られると。思える、得られると。文章のつながりからすると、ると入れるべきではないのかなということと、あと11行目、これデジタル機器でいいのかなと、スマートフォン、タブレット、パソコンといったデジタル機器でいいのかなというように。何かしら違うのでないのかな。

【「情報機器だね」と呼ぶ者あり】

(宍戸一照委員) 情報。デジタル機器ではないのかなと思いました、ざっと読んでみて。

7ページ、ここの16行目、すぐにあらわれる成果は見えてこないためでなく、ここはやっぱり成果をはかりにくいというふうな意味で岡崎市はおっしゃったのではないかと。成果をはかりにくいと。シティープロモーションでの成果を。見えてこないのではなくて、算定しにくい、そういうふうな意味合いで言ったのではないのかななんて思ったりしたところなのですけれども。

あとそれから、8ページ目ざっと読んでみて、しかしという部分で、しかし本市の魅力発信広報はさきにも述べたように目的が、この行になっているのだけれども、ここは別段言わなくても、シティープロモーションというのはどのような魅力を発信するかということでもありますというふうに言っているわけだから、よって本市においても市全体の中で解決すべき課題を正確に捉えでつないでいいのかななんて思ったりしたところなのですけれども。5行目で終わって、6行目と7行目は要らないのではないのかなと。8行目にすぐつないでもいいのかなと。当局を余りこきおろすのもどうかな、なっていないよと言うのもあれかなというよりは、どのような魅力を発信するかということでもありますというので、シティープロモーションの目的は。よって、本市においても市全体の中でというふうには、正確に課題を捉え、目的を明確にし、そのためにどのような事業を行うべきか、柱となる計画をでい

いのかなというふうにぎっと見たところ思いました。

(小松良行委員長) ご指摘でありましたまずは3ページのARですが、非常に日本語にするとかえってな部分もあるのですけれども、これはどうしたらいいのだろうか。

(宍戸一照委員) 皆様のご議論をといるところ。

(土田 聡委員) ARというふうに略さないで、略しないと何だっけ。だったら外来語そのままにしてしまったほうがいいかもしれない。

(宍戸一照委員) でなければ末尾にARとはというふうな、米印でもつけてARとは拡張現実とか、そういうような注釈をつけてやらないとちょっとわかりにくいかなと。我々でさえなかなか理解できない、やっている本人が理解できない言葉を使っても。

(小松良行委員長) ちょっとこの辺は保留をさせていただいて、まずARという点はちょっと保留して、適切な形かどうかを再考してみたいと思いますけれども、4ページのほうの全ての町会加入者ということですが、別にコンビニなどでも無料配布しているし、市民にという言葉に置きかえて十分いいのではないのかなというご指摘でしたが、この点は皆さん、どうですか。そうしたほうがいいですか。市民に毎月配布される市政日よりで……

(羽田房男委員) 配布されているだね。市民に配布されている。

(小松良行委員長) そのようにではちょっと修正を加えてというところでもあります。

それから、5ページ目でございますけれども、2行目でしたか、班回覧のみということで、この点は適切ではないなという気がするということでございますけれども、具体的にどのような文言修正でここはあれですか。全戸配布では……

(宍戸一照委員) でなければ、のみをとって、市内での配布は全戸配布ではなく班回覧となっている。

(小松良行委員長) 班回覧となっているということで修正を図るということで、あと文言ですと、次の3行目に思えて切れていますけれども、読んだときに、次の文章との接続を考えたときに、手にとって見たいと思える、かつということで、るを加えるべきだという点ですが、これもそのようにさせてもらってよろしいですか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(小松良行委員長) 次に、デジタル機器ということでありましたが、これについては情報機器のほうがいいのではないのかといったその他の委員からの声が聞こえてまいりましたけれども、どうですか、この点は。デジタル機器というよりも、スマホもタブレットもパソコンもこの文脈からいくと情報機器のほうが正しいようにも思えますが、皆さん、そのようにしたほうがいいですか。

(土田 聡委員) 一番正しいのはデジタル情報機器なのよね。この間に情報を入れる。単なる情報機器だとラジオとかも。

(小松良行委員長) ただいま土田委員のほうからは、デジタル機器という文言をデジタル情報機器に

すべきではないかのご意見がありましたけれども、いかがでしょうか。そのようにしましょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(小松良行委員長) そのように修正を加えてみて。

次に、これも文言の修正であります、7ページでしたっけ、16行、17行のところですが、成果は見てこないためというふうなことでありますけれども、成果が図りにくいのだという説明であったということであり、この点も次の言葉とのつながりは、成果がはかりにくく、難しい事業であるとのことでありました。すぐにあらわれるような成果がはかりにくく……

(萩原太郎委員) 成果をはどうですか。成果をはかりにくい。

(宍戸一照委員) すぐにあらわれるようなを削除して、成果をはかりにくい難しい事業であるということでしたでもいいのではない。成果をはかりにくい難しい事業であるとのことでした。シティープロモーションはという部分で、主語がシティープロモーションだから。

(小松良行委員長) どうですか。そのほうがすっきりとしたような感じもしますけれども、この点修正加えて、皆さんもよろしいですか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(小松良行委員長) あと、8ページの部分ですが、宍戸委員のほうからは6行目、7行目ですか、改めてここで本市の魅力発信広報をよくないよというような意味合いの文言を入れる必要もないのではないかということであり、6、7行目をカットしたらどうかというふうなご意見でしたが、前後のくだけりを見ましても、よってを除いてもいいのか。どのような魅力を発信するかということであり、よってでいいですね。ここは……

(宍戸一照委員) 提言をするわけだから、別にあえてもう一度ここで本市の不足分を言う必要性はなく、提言として解決のためにどのようなターゲットに、どのような魅力を発信するかということであり、よって、本市においてもというような部分の結論としていいのではないのかなと思ったのですが。

(小松良行委員長) 皆さん、いかがですか。そういうことでいいですか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(小松良行委員長) では、それをそのように。

(土田 聡委員) 今のところは、本当は指摘は指摘としていいかなと思ったのだけれども、これは抜いておいていいと思うのですけれども、別にあれはないのだけれども、10行目……

(小松良行委員長) 8ページですか。

(土田 聡委員) 今の10行目、シティープロモーションを行うべきであります。をが抜けているのではないかと思うのだけれども。もしくは、プロモーションすべきであります。どっちか。これだと中途半端なのだよ、言葉として。

(小松良行委員長) すべきであれば、行うまでも要らなくなってしまうか。シティープロモ-

ションを行うべきであります。

(土田 聡委員) 余り行うという言葉は使わないから、すべきでありますかな。

(小松良行委員長) ただいま土田委員のほうからは、この8ページ10行目の部分においてシティープロモーション行うべきということで、ここはシティープロモーションすべきでありますといったような訂正をすべきだということですが、皆さん、どうですか。いいですか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(小松良行委員長) では、そのように訂正させていただきます。

(羽田房男委員) 1ページの3行目と5ページの14行目、これ統一したほうがいいのかなどというふうに思います。東京電力というのを頭に……

(小松良行委員長) 5ページの。

(羽田房男委員) ええ。の14行は東京電力福島第一原子力発電所事故になっているのですが、1ページは福島第一原子力発電所事故後となっているので、正確に。その間で3行目の特別委員会設置したときは東日本大震災並びに東京電力福島第一原子力発電所事故という、なのですがけれども、最近は及びという言葉を使っているので、中黒でいいのか、それとも及びとかのほうがいいのか、ちょっとその辺は私には判断しかねるのですけれども、その辺をご検討願えればいいなというふうに思います。1つの指摘は、東京電力というのを5ページと1ページの比較でどっちにするか、できれば5ページの14行目の東京電力というのを頭に入れたほうがいいのかなどというふうに思ったところがございます。

続いて、2ページですが、以前当局から説明いただいたときに、福島市の広報戦略、平成28年11月に作成したもので、生活広報というところですがけれども、最後に4行目は市民生活に直結した広報を行っておりますという、なのですが、広報の目指すところを見ますと、市民に直結する情報提供を通じた市民生活の向上のための広報を行っておりますというふうにあるのかなというふうに考えたところでは。

あと、危機管理はそのままこの目指すところを落としたのだなというふうに思いますけれども、できれば生活広報についても目指すところのくだりを入れたほうがいいのかなどというふうに思いました。

魅力発信広報については、広報の目指すところで示されておりますけれども、福島への興味とか関心とか愛着の醸成というところに示されておりますが、このくだりで十分理解できるのかなというふうに思いました。

私からは以上です。

(小松良行委員長) まず、1ページ目、3行目にあります福島第一原子力発電所事故後というところと、5ページ目には14行目、東京電力福島第一原子力発電所事故ということであるが、言葉をそろえたほうがいいでしょう、羽田委員からは東京電力福島第一原子力発電所事故ということにそろえて、

3 ページ目の冒頭、この辺のところも同じく東京電力ということの文言を加えるべきであろうというご意見ですが、この点はどうか。ご指摘のとおり修正してよろしいですか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(小松良行委員長) では、そのように。

そして、次は2 ページ目の4 行目の点であります。市民生活に直結した広報を行っておりますとありますが、市民生活広報についてはきちんとしたお示しをしたくだけりがある、その中身をそっくり用いるべきであろうと。

(羽田房男委員) 広報の目指すところの2 ページの2 行目から。

(小松良行委員長) 市民生活に直結する情報提供を通じた市民生活向上でありといたくだけりになっていまして、市民生活に直結したという言葉、ここを羽田委員、どのように修正したらよろしいか。

(羽田房男委員) 市民生活に直結する情報提供を通じた市民生活の向上のためのでもいいし、の広報でもいいし、直結した情報を通して市民生活の向上のためにやっているのですよと、市民生活の向上というふうに入れてもらえればいいのかと思うので、以前いただいた広報戦略のところだと、生活広報では市民生活に直結する情報提供を通じた市民生活の向上でありというところを示している、情報提供によって何を指すのかというところは市民生活の向上ということなので、生活広報については市民生活の、いろんな情報提供ありますけれども、市民生活の向上を図るのだということが必要なのではないのかなと。市民生活の向上というのをに入れていただければと。それは頭でも最後に通じてというところでも、結びのところでも可能なのかなというふうに思ったものですから、市民生活の向上というところは記載していただければというふうに思っております。

(小松良行委員長) 市民生活に直結し。

(羽田房男委員) ここでは、市民生活に直結する情報提供を通じた市民生活の向上のための広報なのです。向上のためのでもいいし、向上する広報とか。

(小松良行委員長) 市民生活の向上に直結したとしてしまえばいいですね。

(羽田房男委員) でもいいです。

(小松良行委員長) 市民生活の向上に直結したと。そうしますと、これまでの広報戦略の目的と文言もぴたっと合致してくるということになってくるのかなと。

(羽田房男委員) 市民生活の向上というところを具備していただければ。

(小松良行委員長) 市民生活の向上に直結した広報を行っているというふうなことで修正するというふうには。

(粕谷悦功委員) シティープロモーション福島市でやっているやつは、2 ページに書いてあるのだけれども、魅力発信広報の目的を市が持つ魅力を正確に、かつ効果的に市内のみならず国内外に発信して、観光振興、移住、定住、企業誘致、観光の振興に、あるいは移住してもらう、定住してもらう、あるいは企業に福島に来てもらうという、そういうことを目指してシティープロモーションをやっ

いるのだと、まち・ひと・しごとの好循環づくりにつなげる広報を目指しているということの内容で、ここの目的としては、福島市においてはシティープロモーションは目的も明確になって、私は特に問題はないと思うのだよな、これは。

最後に8ページにまとめている内容は、シティープロモーションを広報の一つという位置づけではなく、市の課題を解決し、政策を実現するための事業として捉えるとともにとなっているのだけれども、現状のシティープロモーションはやっぱり市の課題を解決するためのシティープロモーション、市の課題の解決というのは観光がなかなか復活してこないとか、移住、定住がうまく進んでいないとか、企業誘致がなかなか思うように進んでいないということで、福島市の魅力を発信するようなシティープロモーションをやっているのだということなのだよね。だから、課題を解決するためのシティープロモーションをやっているという、そういう状況になっているのだと思うのだよ。政策を実現するための事業、これもなっているような目的でシティープロモーションをやっているという捉まえ方を市の当局はされているように思うのだよな。

それで次に、ここまでやっていることは、今のやっている内容は問題ないのだろうと思うのだけれども、そこで市の総合計画との整合性、連動が不可欠であるため、次期福島市総合計画策定にあたってはと、こうなっているのだけれども、多分連動していると思うのだよな。総合計画の中で観光振興とか移住、定住という内容は計画の中に入っているから。何となくここがお互いに言っていることが、わかるのだけれども、具体的にどうなのだという、内容がここのところがちょっと何か最後のところで余り感じないのだけれども。悪いわけではないのだけれども、もっとうまくシティープロモーションの必要性というのを考えられなかったかなと思ったのだけれども、まあいいか、これで。そう思うわけ。具体的にどうなのだというのは、総合計画との整合性、連動、これをベースにしたシティープロモーション計画をつくれということと言っているのだけれども、今の内容も総合計画、例えば観光振興とか移住、定住だって総合計画の中に企業誘致も入っているし、その中においていかに福島市のいいところを発信して、福島に来たいとか、住みたいとか、会社をつくりたいという内容を促進するという取り組みの広報のようになっているとは思っているのだけれども、シティープロモーションの内容がそういうふうな状況かどうかというのはちょっとあるわね。この前の応募した内容でも渋谷あたりでやったとかいうけれども。そういう問題はそこにあるのだけれども、目的と内容は余り、総合計画との連動とかいう内容では連動しているように思うのだな。だけれども、さらに連動を図るということであれば、ここわかりにくいのだ、非常に。具体性が最後の締めのところ。でも、当局からするとそういうことの課題があってシティープロモーション実施しているのだという捉まえ方するのではないかなと思ったのね。そういうことで福島市のいいところを、渋谷とかどこかに行ってそういうのを発信しているのだということにやっているのだということに捉まえないかなという、そういうちょっと疑問を感じたのだけれども。

(小松良行委員長) 確かに時系列的に私どもの調査を進めていく中において、福島市もそうした魅力

発信広報の強化に努めてきている流れもある中では、ここの最後の提言の部分でいま一つ弱いといえますか、さらに強化していくためのシティープロモーション計画というように結んでいければ、あるいはより具体的な言葉を用いてシティープロモーション計画事業を行うべきだというふうに強められないかという基本的な。ちょっとその点のニュアンスを含めて何かうまいことなってくると言葉として。委員長、副委員長、書記の手元のほうで、おっしゃる意味はよくわかりますので、ちょっと預からせてください。大事なくだりになりますので、ちょっとここら辺は検討させていただければと思います。

ほかにございますか。小野委員、何かありませんか。

(小野京子委員) ありません。

(小松良行委員長) 副委員長、何かありますか。大丈夫ですか。

ほかになんかお気づきのところがあれば。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(小松良行委員長) ないようでしたら、ただいまのご指摘の点を正副手元のほうでさらに調整をさせていただき、次回の委員会においてお示しさせていただければと思っております。流れとしては非常にスムーズに来ておまして、次回もただいまの点を修正したもので、あとてにをはを確認する中でうまいければ、2月は2回ぐらいやらなければならないかななんて思っているところですが、もしかすると次回1回ぐらいで済むかもしれませんけれども、その他を議題とさせていただきますが、次の委員会の日程をちょっと確認させていただきます。

既にお示ししてはございますけれども、2月の5日火曜日午前10時から開催したいと思います。皆さんの手帳にもそのように書いてありますか、それとも……

【「はい」と呼ぶ者あり】

(小松良行委員長) では、皆さんも了ということでございますので、そのように進めさせていただきます。

正副委員長からは以上となりますが、そのほか皆さんから何かございますでしょうか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(小松良行委員長) なければ、以上で総務常任委員会を終了したいと思います。お疲れさまでございます。

午前10時55分 散 会

総務常任委員長 小松 良行